

hand in hand

大曲支援学校
地域支援部
令和7年2月28日

切れ目ない支援体制充実促進事業(令和5年度～令和6年度) 「心のバリアフリー推進モデル地区における障害理解の推進事業」について

地域支援部 丹波舞子

「ハローの会が はじめれば たちまち だれでも なかよしさ」
交流の始めに行われる「よろしくねの会」では、児童の元気な歌声が聞こえてきます。

平成7年度から続いている、大仙市立内小友小学校と大曲支援学校小学部との学校間交流「ハローの会」は、今年度30年目を迎えました。

昨年度から「心のバリアフリー推進モデル地区における障害理解の推進事業」のモデル校に指定されたことを受け、これまでの交流をさらに深められるように、両校で話し合いを重ね実践しました。具体的には、ねらいの整理と共有、オンライン交流の実施、日々の学習活動と交流活動の関連付け、障害理解授業、ハローの会保護者参観、双方の学習発表会予行の参観(3年生)などが挙げられます。

ハローの会は、1年間で直接交流が2回、間接交流(オンラインや手紙の交換)が7回行われました。これまでの交流の積み重ねもあり、児童は「友達に会いたいな」「一緒に〇〇したいな」という気持ちが生まれています。そして、友達のことをよく知っています。そこで教師は、「どんな活動が一緒にできそうか」と児童に問い掛け、交流活動をつくってきました。教師間の丁寧な打合せと児童の実態に合った交流学習を計画・実施することで、児童同士が相手を知り、相手のよさに気付き、主体的に関わる場面が増えました。

2年間の事業を通してこれまでの取組を整理して深めたことにより、同じ地域で暮らす仲間として、一緒に活動して互いを認めることの大切さを再確認しました。





校舎奥に見える福伝山

教諭(兼)教育専門監 大川 康博

先生の気付きと子どもの成長

今年度もたくさんの園・学校を訪問させていただき、子どもへの支援と指導についてたくさん学ばせていただきました。今回は、Aこども園での先生の関わり方について紹介します。

Bさんは、集団での活動時間になってもそれまで行っていた人形づくりが止められずに教室の一角で続けていました。一人の先生が近くでBさんを見守り、もう一人の先生は集団での活動を進めます。一緒に参観していた園長先生は、「Bさんは次に何をするのか分かっているので、今やっていることが終わり、自分で区切りがつけられれば、集団活動に参加します」と言いました。これまでは集団に合わせようと先生が声を掛け、余計に参加できない状況にしてしまうことが多かったそうです。今の対応に変えてからは、多少遅れながらも集団での活動に参加できることが多くなったそうです。

Cさんは、気持ちが不安定になったときに「〇〇を投げたら、どうなる？」などと先生に質問するそうです。先生が答えたことと自分の考えが違くと、さらに不安定になっていたため、対応に苦慮していました。最近では、質問の答えをCさん自身がもっていることに気付き、「Cさんだったら、どうする？」と返答するようにしました。Cさんが言ったことに「そうだね」と返すことで不安定になる場面が減ってきました。

いろいろな考え方の先生がいます。「何でその場で注意しないんだ」「周りの子どもたちの迷惑だ」「指導放棄だ」などと思われるのではと、心配する先生もいるかもしれません。そのような場合は、今までの経緯を説明し、その上で望ましくしない行動を少なくするための指導方針であることを説明し、園・学校全体で共通理解を図ることが大切です。自園・校だけにとどまらず地域で成果を共有できるよう、今後も応援していきたいと思います。

相談・見学等の希望がありましたら、御連絡ください。

秋田県立大曲支援学校

教 頭：北島 英樹（きたじま ひでき） 川越 真紀子（かわごえ まきこ）

教育専門監：大川 康博（おおかわ やすひろ）

地域支援部主任：丹波 舞子（たんば まいこ）

特別支援教育コーディネーター：熊谷 道大（くまがい みちひろ）青木 真知子（あおき まちこ）

特別支援教育アドバイザー：大沢 貴子（おおさわ たかこ）（大仙市立花館小学校内）

〒014-0072 秋田県大仙市大曲西根字下成沢 122

電話：0187-68-4123 FAX：0187-68-4122

部報「hand in hand」や依頼状の様式等は、大曲支援学校 HP からダウンロードできます。